

人の子よ、自分の足で立て  
——エゼキエルの召命

エゼキエル 2：1 - 7



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021年7月4日  
聖霊降臨後第6主日  
上野聖ヨハネ教会にて

ひとりの若者が川のほとりに座っていました。年は 30 歳。名はエゼキエル。その名前は「神は強めてくださる」という意味ですが、彼は無力感に打ちひしがれていました。自分はこの状況の中で何もできない。神も沈黙しておられるかのようです。

彼、エゼキエルは祭司ブジの息子として生まれ、自分も父を継いで祭司となる道を歩んできました。ところがバビロニア帝国の圧倒的な攻撃によりエルサレムは陥落。ユダ王国は滅び、エルサレム神殿は破壊されてしまいました。そのうえ、数千人が強制的にバビロニアに移住させられました。「バビロン捕囚」と呼ばれています。その中にエゼキエルもいたのです。

ここはメソポタミア文明の中心地、チグリス・ユーフラテス川の下流に張り巡らされた運河のひとつ、ケバル川のほとりです。ここに今、30 歳のエゼキエルは、何の希望もなく、首をうなだれてうずくまっています。

急に激しい風が吹いてきました。大きな雲が巻き起こり、その中に火が激しく燃え始めました。恐ろしい光景にエゼキエルは飲み込まれそうです。その中に生き物のようなものが動いています。生き物の上のほうには水晶のように輝く大空のような

ものが広がり、その中にサファイアのように見える王座の形をしたものがあり、その上には人間のように見える姿をしたものがありました。

光と火を放つその神々しいもの——エゼキエルは、主なる神の栄光の姿の有様を見たのです。彼は恐れのためひれ伏しました。

そのとき、語りかける者があって、エゼキエルはその声を聞きました。神の声です。

これがエゼキエル書第1章に記されたエゼキエルの召命の物語です。今日の旧約聖書日課はその続き、第2章の初めです。

「彼はわたしに言われた。『人の子よ、自分の足で立て。わたしはあなたに命じる。』

彼がわたしに語り始めたとき、霊がわたしの中に入り、わたしを自分の足で立たせた。わたしは語りかける者に耳を傾けた。」エゼキエル2：1-2

神は地に伏しているエゼキエルに語りかけられます。

「人の子よ、自分の足で立て。わたしはあなたに命じる。」

しかしそう言われても、エゼキエルは立てません。彼には自分の足で立つ力はないのです。けれども彼に語りかける声とともに、霊が彼の中に入りました。

「彼がわたしに語り始めたとき、霊がわたしの中に入り、わたしを自分の足で立たせた。わたしは語りかける者に耳を傾けた。」2:2

霊は、彼を自分の足で立たせました。彼は自分に語りかける者に耳を傾けました。これが預言者エゼキエルの出発です。彼は神の言葉を伝える使命を与えられました。これから無限の困難が待ち受けているとしても、神の霊が彼を立たせ、言葉を与えて、彼を守り導かれます。

聖書の信仰には二つの面があります。一つは受け身であることです。まったく無力になったわたしが、神さまから受ける。神から恵みと赦しと力を徹底的に受けるのです。この受動的な面が大切です。

同時にもう一つの面があります。それは「自分の足で立つ」ことです。自立する。この世の何かに依存し従属することをやめて、独立した人間となって神と共に立ってしっかり生きる。

積極的、主体的な面です。

今、神から霊を受けたエゼキエルに、この両方のことが起こりました。

「彼はわたしに言われた。『人の子よ、自分の足で立て。わたしはあなたに命じる。』

彼がわたしに語り始めたとき、霊がわたしの中に入り、わたしを自分の足で立たせた。わたしは語りかける者に耳を傾けた。」

エゼキエルの召命の出来事はあまりに特別であって、安易にわたしたちと彼を結びつけることはできない気がします。にもかかわらずこの箇所には、わたしたちにとって大切なことが込められています。特に「神の霊」に思いを向けましょう。

第1に、霊が、神の霊がわたしの中に入ってくださいなければならない、ということです。神の願われることを行うためには、神の霊をいただかなくてはならない。

神の霊はわたしの中に入ってわたしの中心となる。わたしの命となってくださいます。わたしの中で主役が交代し、神の霊がわたしの主体となられるのです。

これはわたしたちひとりひとりにとってそうですが、教会に

とってもそうです。このわたしたちの教会の中に、神の霊が入ってくださらなければなりません。神の霊が入って教会の中心になってくださってこそ、教会は神さまの家、その働きの器となることができるのです。

第2に、神の霊はわたしを自分の足で立たせます。わたしを自立させます。神の霊は、自分でできないことをわたしにさせる。わたしたちを主体的、積極的にします。

第3に、神の霊はわたしに耳を傾けさせます。神がわたしに何と言っておられるかに耳を傾けさせるのです。

わたしたちは多くの場合、人の声に影響され、自分の中の自分の声に動かされています。しかし人と自分のさまざまな声を脇に押しやって、神の声を聞こうとするわたしが始まります。

わたしに語りかけられる方に耳を傾ける。ここから、神さまの願いを行おうとするわたしが始まります。

神の霊はわたしたちを愛して、わたしたちに対する熱意をもって、わたしたちの中に入りたい、わたしたちを自分の足で立たせたい、と願っておられます。神に耳を傾け、神の願いを行うわたしたちになってほしいと、切に望んでおられます。

これはわたしたちに縁遠いことではありません。実はわたしたちは洗礼おいて、そのような神の霊を受けたのです。

祈ります。

神さま、わたしたちを愛してくださるあなたの霊がわたしたちの中に入ってください。あなたの霊がわたしを自分の足で立つようにしてください。あなたが語りかけられることに耳を傾けさせてください。すでにわたしたちの内に入れてくださるあなたの霊が新しく働いてくださいますように。そうしてわたしたちも、神さまの業を行うことができますように。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン